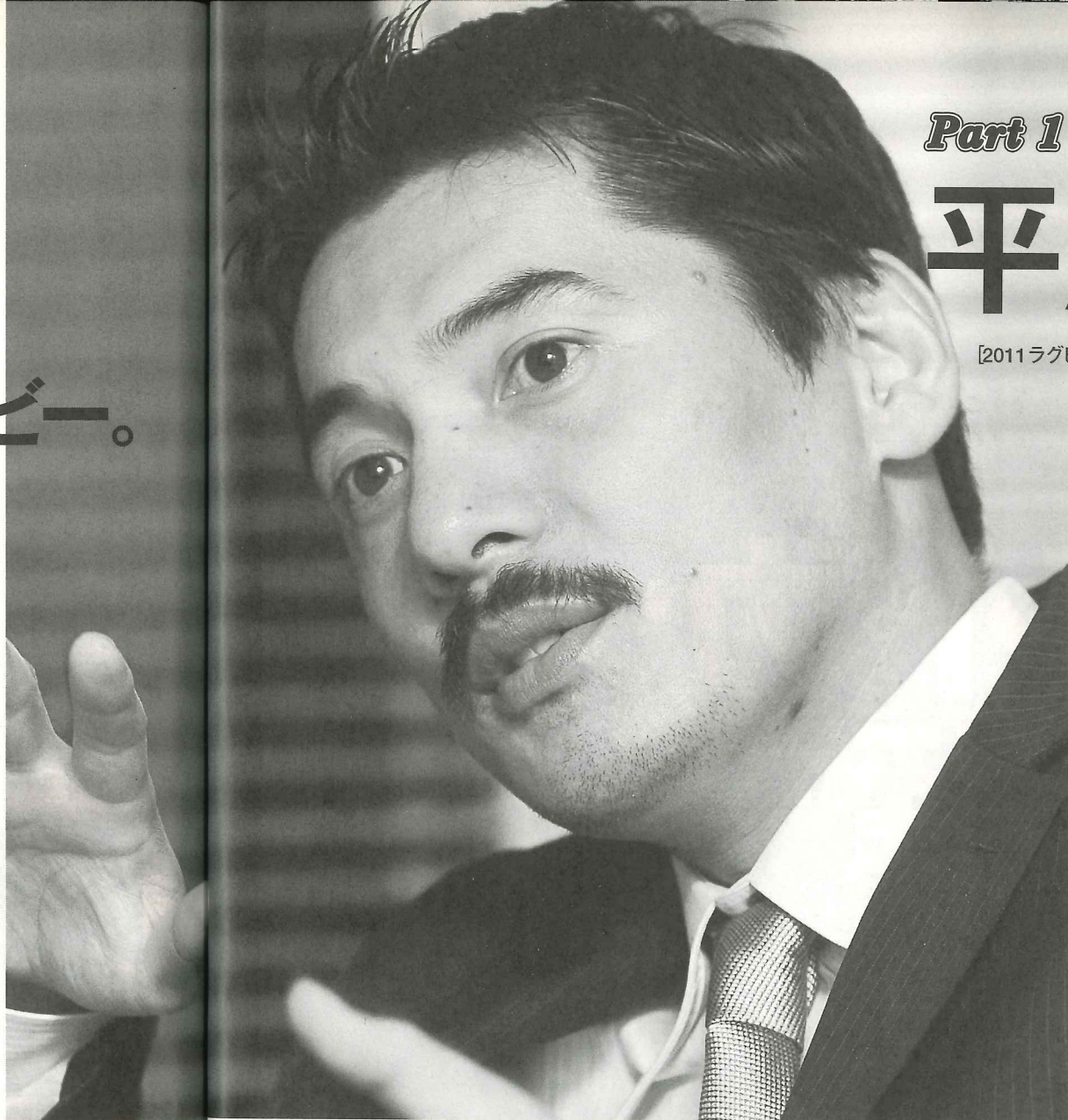


# 平尾誠二

[2011ラグビーワールドカップ日本招致実行委員会GM]



このままなら、いつまで経っても時期尚早。せつかくの好機、それをつかみにいく姿勢で。

GM (セシル・マネージャー) 「W杯の招致に関して、いろんな不安、問題があるのは、皆さんが思っているのと同じようなところを多くの方が感じていました。ただ、問題があるから開催には十分じゃない...とかそんなことを言ったら、たぶんズッとできない話だと思っ。きっかけがあるのなら、早くやったほうがいいと僕自身思っていたところに、声をかけてもらった。力になれるなら」と

GMです。先頭に立ち、周囲を動かすイメージがあります。

「ロビー活動は、僕のメインのジョブではない。それは今までやってきている堀越さん(IRB理事)がいたりいろいろな流れがあって、日比野さん(招致委員会委員長、真下

さん(同委員長)あたりが顔として動かれる。そういう状況の中で、国内的な盛り上げをこれからやっていかなきゃいけないということ、僕なんかが必要とされるかもしれない。やることを限定せず、プラスになるんだつらとりあえず動いていくという、広い考え方のほうがいいと思っています」

招致委員会発足時の記者会見で、大会成功への要素として「強化と普及、マーケティングをつなげていって、ベクトルをひとつにしていきたい」と

それが理想的です。誘致が決まったとして、開催の頃までにそうやっていかなかったら、とんでもない恥かきますよ日本は。開催国として早々に敗退するのではなく、決勝トーナメントには行きたい。そのための準備は、もつ今からでも遅いぐらいかもしれない。そういう状況の中で、強化、普及...いろんなセクションが、それぞれ連携していかないと大会の実現も成功もないのは明らかです」

その求心力として、平尾GMの力が必要とされた。

「うまく使ってもらえたらいいですね。やれることはやる。皆さんに前が必要と思ってもらせるのなら、とことん頑張つて(W杯を)持ってきたいと思っています」

招致の顔的な役目を果たしていくことになりそうですか。

「招致の最中もそうですが、決まってきたらの方が重要だと思つてます。GMという肩書きで言うならば、長期的な展望を持つておきたい。招致が決まれば、それじゃあスタート...では遅すぎる。いまから構想を持ち、練つておくことが必要です。

「W杯もずいぶん変わってきていますよ。回を重ねるごとにイベントとして大きくなっている。エンターテイメント性も高まった。でも真似するのではなく、独自性、日本の文化に馴染んだものというの考えないといけない。人々の記憶に、第7回W杯でなく、「日本をやった、あのW杯」と残るようなものにならないといけないと思う」

「一つひとつ不安材料を探していたら、一生できない(笑)。時期尚早だと言ったつら、いつまで経つても時期尚早です。この状況は100年経つても変わらないでしょう。これを機に、ラグビー文化というか、ラグビーが一気にステップしていくように、せつかくのチャンスをつかみにいくことだと思います」

選手として3度、監督として1度、W杯を体感してきた実績を買われてのGM登用ですが、過去に見てきたW杯同様のものを日本で実現するのは可能でしょうか。

「W杯もずいぶん変わってきていますよ。回を重ねるごとにイベントとして大きくなっている。エンターテイメント性も高まった。でも真似するのではなく、独自性、日本の文化に馴染んだものというの考えないといけない。人々の記憶に、第7回W杯でなく、「日本をやった、あのW杯」と残るようなものにならないといけないと思う」

ただ、大会が終わると同時に潮が引いていくようでは困ります。

「W杯は、日本のラグビーのビッグステップです。日本がもうワンランク上のラグビーに取り組んでいける国になるといことだと思つています。だから、あくまでこれは一つの大きなプロセス。ただ、それがなかったら次もないかもしれない、非常に大きな一歩」

招致決定がゴールでもないし、開催がゴールでもない。

「当面のところは招致が僕らみんなの目標ではあるけれども、最終的な目的じゃない。実際に大会が開催されることになり、それを運営し、そこで「日本のラグビー」にありや」つてとる世界に知らしめる。そういう機会だと思つています。ただ日本のラグビーが強くなったとかでなく、日本という国はラグビー環境を持っているとか、素晴らしいファンがいるか、そういうことも含めて、それが日本以外の国の人たちに伝わるいい機会」

2011大会、日本ラグビーのどのポジションにいる予定ですか?

「観客ですね(笑)。ええ席で、そこには何の責任もなく、ただファンとして代表のゲームを見られたらそれは、そうなるように僕らが頑張るといことですが...その結果、ひとりの観客としてW杯を楽しめたら幸せです」

10月18日の「2011ラグビーワールドカップ日本招致委員会」発足で、本格的に始動した日本協会の招致活動。ジャパンの遠征に合わせ、委員会上層部が欧州各地を回りロビー活動を展開しているが、国内活動の中心となるのは平尾誠二GMだろう。いまだ絶大なる知名度を持つ氏。1年後の招致決定、7年後の大会成功に向け、どんな構想を描いているのか。

文/田村一博 写真/高野徹

## いま、この国に足りないのはラグビー。

日本が失いつつあるものがラグビーにはある。いまの中高生はW杯を意識しながら育っていく。

「いま日本にW杯はなぜ必要なのでしょう。招致の大義は。」

「答えはいろいろある。ただ、今回の活動の中で使われていくコピーの中に「いま、日本に足りないのはラグビーだ」というようなものが出てきます。ここでいうラグビーとは、スポーツとしてのラグビーでなく、ラグビーという思想です。これはW杯を持つてくるのとつながる話で、このスポーツそのものを見ていたきたという関係者の願いももちろんそこにあるけれど、日本という国そのものが失いつつあるものが、実はラグビーの中にもつづいて詰まっているんじゃないかと。」

そういう意味でのラグビーの必要性は、日本の中で非常に高いと思う。連帯感、一体感とか、プレーの繊細さ。我々が失ってきたものに何かつながってきた。単なるスポーツというだけではない。そこにある思想的なもの、哲学的なもの、文化的なものを、いまの日本は失いつつある。ラグビーの本質は、日本全体にとって必要なメッセージです」

「これまでの様々な活動を通して、他のスポーツ界とか、政財界とか、いろんな方々と交流があると思ひます。日本ラグビーに欠けてい

るものが見えてきたりしませんか。

「たとえば、トップリーグ前くらいからのラグビーの変遷というのは、アマチュアからオープン化に変わってきたこと。たまたま変わっていく中で、日本が先陣を切つて新しい方向性を出したってことはないですね。世界を追随していくとか、それらしいものを許していくということになっている。一度、新しい方向性を自分で切り開くやり方もあつていいのかな、って気もします。」

日本は情報を受ける側で、その情報を受けつたうえでアクションを起こしてきた。発信する側にかかってくるかが重要だと思ひますか。

「考えを持っていても、それをなかなか発信、実行できない構造的な問題もある。」

「自分たちにある資源は何であるか考えたうえで、現実的な戦略を打つて出ないといけない。そこで日本の強みって何? とすると、大学ラグビーが盛況だとか、根強いファンがいたりありますよね。ただ、それがなかなか広がらないのは、ファンと、ファンでない人の間に、ものすごく差がある。ラグビーは、そこそこ知つているという人があんまりなくて、ものすごくコアが、そうじ

やないか両極端です。そういう状況でも、秩父宮ラグビー場にそこそこ人が入るといことまでではよかつたんだけど、W杯では規模が変わつてくる。そうすると、ファンそのものの底辺を拡大していくか、増やしていかなければいけない。いままでとは違ったファン獲得の手法が必要となつてくるわけだけど、そんなことをやってき歴史が日本には全然ない。見に来たい人は見に来いというか、ファンに観に来てくださるという姿勢はなかつたから。」

そのあたりを変えていくのに、まだまだ行動と考え方がピチッと一致はしていないんだけど、それをやっていかなければならない」

招致、そして大会成功への意気込みを聞かせてください。

「ホントに素直に...というか、純粋に、W杯を自分の国で見られるというのには素晴らしいことだと感じるんです。僕だけにかかわらず、同じぐらいの年代でラグビーに携わつていた人間は、日本でW杯...なんて考えもしなかつたことだと思ひます。それが、現実としてあり得る話になつてきているんです。いまの中学生、高校生は、それを意識しながらプレーしていきことになる。」

そんなことを思つたら、ぜひとも呼びたい。自分たちの中で体感したい。日本のラグビーは国際競技力という点で、まだまだ十分じゃないかもしれない。集客だつていまは不安がある。国内での認知度も、そう。確かにリスクはあるし、不安要素もあるけど、でもそれだから...つて言

B.B. MOOK

「早明戦80年」臍脂と紫紺の記憶

定価 本体950円+税

11月30日発売!



「日本でW杯を」が圧倒。が、招致への切り札なく、今遠征の結果が...

10月28日から11月10日にかけて行... 読者インターネット投票... 「ワールドカップ日本招致」について、89名から回答があった。

Q1 W杯日本招致に賛成、反対

【賛成】「夢」「人気復活のいい機会」「ラグビー地位の向上、経済効果」「日本人にラグビーの良さを知ってもらいたい」

Q2 日本、南ア、NZ。招致レース、勝つのはどっち?

【日本】「私の願望」「希望的観測」「経済力」「消去法」「整備されたインフラ。治安のよさ。アジアでは初の開催」ということもある



昨年のW杯ではマイナー国の試合にも大観衆が押し寄せ、大会は大成功

招致に影響のありそうな今回の日本代表欧州遠征。予想は、何勝何敗?

【スコットランド】「Xウエルズ3勝」「世界最強と戦うなら、現時点で最強メンバーを出しては良かった」

2011年、日本でW杯開催決定。メイン会場はどこ?

【秩父宮ラグビー場】「聖地。ここしかない。2011年までに改装が必要ですが」

【スコットランド】「Xウエルズ2勝1敗」「スコットランド、Xルーマニア」「スコットランド、Xルーマニア」

【国立霞ヶ丘競技場】「ナショナルスタジアムじゃなきゃ」「収容人数を考えれば、ここ(でも)空席があれば、恥かつ失礼ですわ」

近鉄花園ラグビー場

「ここしかないでしょう。基本的な造りはしっかりしている。改修すれば立派に」

味の素スタジアム

「東京。収容人数も多数。代表の試合も何度か」

さいたまスタジアム

「規模の大きさ、グラウンドとピッチの近さ。決勝にふさわしい」

豊田スタジアム

「日本の真ん中で」

新潟ビッグスワン

「国際A級の球場で、多数の人数が入ること、今回の災害で少しも明い話題がほしい」

花園or秩父宮or熊谷or新スタジアム

「ラグビー専用の場所という聖地を再創造したほうが後々のためになる(要改修)」

外国人監督は?

「世界が目注している大会、日本でアジアで初めて開かれたことを誇れる象徴を」

日本人監督

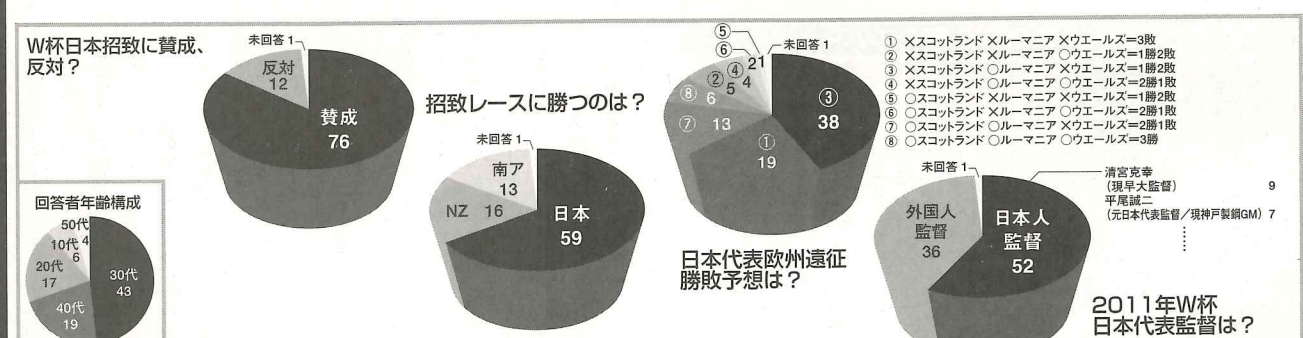
「その頃にはそろそろいい日本人監督が出てくる」

日本人監督

「スタッフは先進国の外国人を留意し、日本人らしさを加味したラグビーを」

清宮亮幸/現日本代表監督

「選手強化、戦術、マーケティング、」



B.B. MOOK 「早明戦80年」臍脂と紫紺の記憶 11月30日発売!

Let's vote section with text about the magazine and a photo of a rugby team.